１２／８『失われた者を捜して』（ルカ１９：１～１０）

長谷川　望 牧師

＊ザアカイは「取税人のかしら、金持ち」であった。取税人は、ローマの手先となって税を取り立て、しばしば不正を行って金を自分のものとしていたので、「罪人」としてさげすまれ、差別されていた。ザアカイはそのかしらだったので、金持ちであったことは想像がつく。神の国からは遠い人物であった。また、かれは背が低かったので、コンプレックスを持っていただろうと思われる。

＊私たちが救われるためには、（１）イエスのことに関心を持ち、イエスに出会うこと。

　ザアカイはイエスいう噂の方が来られると知って、見てみたいとエリコの町まで出かけて行った。しかし、2 つの壁があった。一つはイエスが見えない。背が低かったので群衆にさえぎられて見えなかった。その時次の行動を起こす。いちじく桑という木に上った。そこで奇跡が起こった。**「イエスはその場所に来ると、上を見上げて彼に言われた。「ザアカイ、急いで降りて来なさい。わたしは今日、あなたの家に泊まることにしているから。」ザアカイは急いで降りて来て、喜んでイエスを迎えた。（ルカ１９：５～６）**罪人の烙印を押されているザアカイには普段泊まってくれる客などいなかったと思われる。イエスに対する関心が募り、諦めないで何ととかしてイエスの姿を見たいという熱心を見抜かれて、イエスに泊まっていただくという光栄に浴することができたのである。

　壁の２つ目は人々の目、世間の目である。**人々はみな、これを見て、「あの人は罪人のところに行って客となった」と文句を言った。(19:7)**当時、ユダヤ指導層が社会を支配し、イエスという方を崇めたり、信じたりすることは反逆者として白い目で見られていた。しかし、ザーカイはイエスのことばや行いに直接触れると、そのようなことは気にならなくなった。

＊救われるためには、（２）自分の罪を認めて告白し、悔い改めること。

　ザアカイは、財産の中に自分が脅したり、不正をしたりして得たものがあることをイエスに告白し、悔い改めの行動をすると決心する。その心が本物であることを見てイエスは言われた。**19:9 イエスは彼に言われた。「今日、救いがこの家に来ました。この人もアブラハムの子なのですから。人の子は、失われた者を捜して救うために来たのです。」**心から罪を悔い改めれば、どんな罪でも赦される。それは、主イエスがその私の罪を背負い、私の代わりに十字架にかかってくださったからである。「悔い改め」は、さらに大きく、広く、今までの罪深い自分中心の生き方を神様、イエス様中心の生き方に転換することである。その確かなしるしとして洗礼がある。

*イエスが来られて、救われるべきはイスラエルだけではなく、全世界の人々であることが示された。すべての人はイエスを自分の救い主と知るまでは「失われた者」である。一人ひとりを、名を呼んで探し出してくださるのである。応答して救いの道に入ろう。